

## 令和3年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

重点課題①「授業技術の向上を図ることにより、生徒の主体的な学びに対する取り組みを進め、理解を深める。また、自己実現のための進路指導を充実させる」、重点課題②「基本的生活習慣の定着と新湊高校生としての自覚ある行動を目指す。部活動の活性化を図るとともに、行事等への参加をとおして学校生活に主体的、積極的に取り組む態度を育成する。」を設定し、課題解決のための方策に取り組んだ。

課題①では、教員一人が2回以上、授業見学・研究する機会を設け、定期考査後には思考力・判断力・表現力を問う問題に関する生徒アンケートを実施し、結果を分析・検討した。授業見学・研究は各教科が1、2学期に実施した。31名の教員が他教科の授業も見学し、概ね目標を達成した。思考力・判断力・表現力を問う問題に関する生徒アンケートの結果は、正答率が70%を超えた科目が1学期は45科目中8科目、2学期は33科目中8科目であった。アンケート結果をもとに考査問題の作成の研修や、タブレットを活用した主体的に学ぶ授業展開の研究が進んだが、思考力・判断力・表現力を問う課題に対する理解度が高まるよう一層の工夫が必要である。また、進路意識の高揚を図るため、学年ごとの達成目標を掲げ実践し、それぞれの目標を達成した。しかしながら、進路に対する意識はあり目標を持つてはいるが、入試制度が変化する中で実現に向けた具体的な学習活動が十分ではない生徒もいる。低学年からの学習習慣、基礎学力の定着に向けた工夫や支援がさらに必要である。

課題②では、通信機器使用や無断遅刻者数等、学校や社会のルールを守る規範意識の向上を目指した。通信機器使用については、生徒会長が全校集会でルールを守るよう呼びかけ、自律委員がポスターを作成するなど、生徒たちが自ら意識を高める取り組みを行った結果、指導件数は目標内の数値となった。無断遅刻については毎朝の遅刻指導を継続したが、2学期以降から遅刻者数が増加し目標を超える数値となった。今後も、生徒自らが基本的生活習慣の確立と時間を守る意識を高める取り組みを継続したい。学校行事においては新型コロナ感染症の対策として、体育大会は種目数を減らし、文化活動発表会は校内の展示発表と高周波文化ホールのステージ発表に変更し、合唱コンクールは中止した。また実施した行事は無観客とした。その中で、生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じた生徒は全体で95%となり、どの行事も生徒会執行部を中心に各委員会や部活動、係が主体となって活動し、内容も良く生徒全員が楽しめるものとなった。部活動単位でのボランティア活動は、初めての取り組みで目標を達成できなかったが、来年度も行いたいと考える顧問が7割で、やめたいという意見はなかった。受賞件数については、文化部の受賞が増えた。受賞報告会の形式を変えたことで、受賞生徒全員の活躍を披露できる良い機会となった。

学校評議員からは、学校の目標・方策、評価ともに概ね適切であることのほか、「生徒の思考力・判断力・表現力の定着度」の達成数値の割り出し方を詳しく知りたい、個々の生徒に応じた進路支援や3学年で進路実現できるよう更なる進路指導をお願いしたい、ボランティア活動の取り組みは評価できるが達成目標の見直しが必要等、地域とともに生きる学校として教育活動のさらなる充実と改善を図ってほしいとの意見があった。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学習指導、進路支援、生活指導、特別活動は、生徒の学力の充実、進路実現と人格の完成に向けて、本校における教育活動の柱とするところであり、引き続き重点として取り組むべき課題である。

学習指導の充実については、教員の授業力が向上し生徒の主体的に学ぶ姿勢が高められるよう、教員同士が積極的に議論できる場を設けていきたい。

進路支援においては、クラスや学年が一丸となって進路実現に取り組むために生徒の意識を高める取り組みの充実を図りながら、面接を重視して一人ひとりに応じた支援を行うことが必要である。また、大学入試に関する情報を教員間で共有し、生徒・保護者に適切に提供する必要がある。

生徒指導については、規則正しい生活が基礎・基本となり、学習・進路支援に活かされるという考えに基づき、生徒自らが規範意識を高める取り組みを継続するとともに、生徒指導が学校全体の共通理解のもとで行われていく必要がある。また、不登校やいじめ等の諸問題に対しても、日頃からの情報収集、早期対応に努めることが大切である。

学校行事や部活動に対しても、教員が活動の目的や価値などの意義をしっかりと伝え、生徒が自主的、積極的に取り組むことができるように環境を整えていくことが課題であり、自分が成長できたと感じ達成感を得られるような活動を今後も目指していく必要がある。

## 8 学校アクションプラン

令和3年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の充実</li> <li>・進路意識の高揚</li> </ul>
重点課題	授業技術の向上を図ることにより、生徒の主体的な学びに対する取り組みを進め、理解を深める。また、自己実現のための進路指導を充実させる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互見授業期間を設定し、教員が授業を公開し意見交換を行っている。また、生徒の学習実態把握のために授業アンケートを実施している。</li> <li>・授業において、グループディスカッションやペアワーク等、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れたり、タブレットなどのICT機器を取り入れたりすることで、思考力・判断力・表現力を育てる授業や主体性を持って様々な人と協働して学ぶ態度を育てる授業等、学習効果を高める指導法の工夫に努めている。</li> <li>・生徒の授業に対する理解度や授業への主体的取り組み度において「十分できている」と回答している生徒は全体の65%前後にとどまっていることから、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする学習評価への改善が必要である。</li> <li>・現状と将来の進路との距離を把握できていない生徒が多い。具体的な進路目標を見つけ、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びつける必要がある。また、安易な選択をせず、高い目標に自ら挑戦するよう進路意識を高める必要がある。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究の実施 一人2回以上の見学 (他教科の授業を1回以上見学)</li> <li>・生徒の思考力・判断力・表現力の定着度 70%以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年：志望する学部や職種が定まっている割合 85%（1月時点）</li> <li>・2学年：具体的な志望校、業種がいくつか定まっている割合 85%（1月時点）</li> <li>・3学年：進路決定者の割合 98%（3月末時点）</li> <li>・生徒一人当たりの年間面接回数 1・2学年 4回以上 3学年 5回以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識の高揚を支援する強化期間として、面接週間を年3回、各学期初めの月に設定する。</li> <li>・ホームルームや総合的な探究の時間における進路学習をはじめ、進学講話、進路ガイダンス、オンラインでのオープンキャンパスへの参加やホームページ等による情報収集の推進、キャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）、大学研究、大学入試研究、進路研修旅行（大学訪問）、インターシップ、土曜学習会などの取り組みを実施し、進路意識の高揚を図る。</li> <li>・困難な課題に直面した時にも、進路目標達成に向けて挑戦する気持ちを持続できるように明確な目的意識を持たせるとともに、面接等をおして支援を行う。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を互いに参観する機会を設け、2回以上授業を参観する。</li> <li>・授業参観メモの記入や、時系列での授業分析を行う授業検討会を実施する。</li> <li>・アクティブ・ラーニングの視点に立った活動やICT機器の効果的利用をした授業を取り入れ、学習の効果を高める。</li> <li>・定期考査終了後に、思考力・判断力・表現力を問う問題に関する生徒アンケートを実施し、結果を分析・検討する。</li> <li>・生徒の学習状況を踏まえ、令和4年度に向けて作成する「指導と評価の年間計画」に反映させる。</li> <li>・考査、模試、検定試験、学びの基礎診断を実施した後に個々の生徒や学年全体の結果分析を行い、学力向上に結びつく指導方法を検討する。</li> </ul>

達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究については、各教科が1学期(学校訪問時)、2学期に1回ずつ実施することができた。31名の教員が他教科の授業見学を行った。</li> <li>・生徒アンケートの結果(正答率が70%を超えた科目) 1学期45科目中8科目 2学期33科目中8科目 アンケート結果をもとに考査問題の作成についての研修が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年：94.8%</li> <li>・2学年：89.9%</li> <li>・3学年：普通科153名(98%) 商業科39名(100%)</li> <li>・生徒一人当たりの年間面接回数 1・2学年は4回以上、3学年は5回以上実施した。</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究では、思考力・判断力・表現力や主体性をもって多様な人々と協働して学べる態度を育てる指導法についての研修を目的に、タブレットなどのICT機器を活用する場面も着実に増えてきた。</li> <li>・指導と評価の一体化を念頭に置いた考査問題の作成を呼びかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスの受講やオープンキャンパスの参加、勤労観職業観の育成事業の講師講演などを通じて、進路意識を高めることができた。(1年)</li> <li>・オンラインでの大学模擬授業の受講やオープンキャンパスへの参加、進路研修旅行やインターンシップを通じて、進路意識を高め、進路先決定につなげることができた。(2年)</li> <li>・進路実現に向けて、面談の機会を増やし、自主学習の習慣が身につくように学習習慣の定着を図った。(3年)</li> </ul>
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はタブレットを活用した主体的に学ぶ授業展開の研究を進めることができた。この取組が思考力・判断力・表現力を問う課題に対する理解度を高めることにつながられるよう一層の工夫をしたい。</li> <li>・進路に対する意識はあり、目標を持ってはいるが、入試制度が変化する中で、実現に向けた具体的な学習活動が十分ではない生徒がいる。低学年からの学習習慣、基礎学力の定着に向けた工夫がさらに必要である。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の思考力判断力表現力の定着度」の達成数値がどのように割り出しているか分かりにくいので詳しく知りたかった。</li> <li>・タブレットの活用を含め、主体性をもって学べるよう、指導法の工夫をされていると感じる。正答率の数値は十分では無いようだが、得意分野の伸長を実感した生徒の割合は高く、また商業科では、射水市との連携事業に参加し資格の取得率も良好なところが評価できる。</li> <li>・先生方の授業研究への真摯な取り組み、生徒一人一人への細やかな配慮が全ての項目に見られる。</li> <li>・目標の立案とプロセス、行動結果が伴っており非常に良いと思う。また、次年度の課題も明確でこのまま実行に移すようお願いしたい。</li> <li>・1、2学年は進路意識が高くなってきていることは評価できる。3学年間で進路実現できるようさらなる指導をお願いしたい。</li> <li>・行動制限など制約が多い中、Webをさらに活用し入試制度の変化への対応と個々の生徒に合った進路支援をお願いしたい。</li> <li>・コロナ禍という事もあり、実体験や見学が困難な状況でよく達成できていると思う。生徒一人当たりの面接相談(1・2年4回等)の達成状況について、資料からは分からなかった。</li> <li>・コロナ禍での進路支援は非常に大変だったと思うが、しっかりサポートされている。</li> </ul>	

次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力が向上し、生徒の主体的に学ぶ姿勢が高められるよう、教員同士が積極的に議論できる場を設けたい。</li> <li>・希望の進路先に対して、インターネットなどを活用し、生徒が体験をしたり見学したりする機会を増やす必要がある。</li> <li>・進路実現に向けてクラス（学年）が一丸となって取り組むために、仲間意識を高める必要がある。</li> <li>・個人面接をとおして、それぞれの生徒が現状と志望校との距離感を把握するとともに、視野を広げていく必要がある。</li> <li>・入試制度に関する正確な情報を全教員で共有し、保護者や生徒への情報提供を随時行う。</li> </ul>
------------	---

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和3年度 新湊高等学校アクションプラン - 2 -			
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識、基本的生活習慣の確立</li> <li>・主体性を育む特別活動</li> </ul>		
重点課題	基本的生活習慣の定着と新湊高校生としての自覚ある行動を目指す。部活動の活性化を図るとともに、行事等への参加をとおして学校生活に主体的、積極的に取り組む態度を育成する。		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則では、校内での携帯通信機器の使用を認めないことになっているが、校内での無断使用が目立つ。学校や社会のルールを守る規範意識を高める必要がある。</li> <li>・「8時25分までには登校する」という指導をしているが、しっかり守れない生徒がまだ多い。基本的生活習慣を確立し、時間に余裕を持って行動するという意識を高めたい。</li> <li>・生徒会行事に積極的に参加する生徒は多いが、行事の企画・運営については生徒会執行部や教員が主体となりがちで、生徒一人ひとりのかかわりは少ない。</li> <li>・部活動をとおして自分を成長させることができたと感じている生徒は85%と多い。</li> <li>・各種大会やコンクールの受賞件数は目標を達成しているが、受賞する部活動は固定化している。</li> </ul>		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信機器に関する違反件数 年間10件以内</li> <li>・無断遅刻者の人数 1日平均0.5人未満</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感ずることができる生徒の割合 80%以上</li> <li>・奉仕活動や校外ボランティア活動を年2回以上実施した部の割合 50%以上</li> <li>・各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信機器に関する違反件数 年間10件以内</li> <li>・無断遅刻者の人数 1日平均0.5人未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感ずることができる生徒の割合 80%以上</li> <li>・奉仕活動や校外ボランティア活動を年2回以上実施した部の割合 50%以上</li> <li>・各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信機器に関する違反件数 年間10件以内</li> <li>・無断遅刻者の人数 1日平均0.5人未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感ずることができる生徒の割合 80%以上</li> <li>・奉仕活動や校外ボランティア活動を年2回以上実施した部の割合 50%以上</li> <li>・各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上</li> </ul>		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や自律委員会を中心に、通信機器に関するルールを守るための話し合いを行うなど、意識を高める取り組みを行う。</li> <li>・毎朝の遅刻指導を徹底し、時間を厳守する意識を高める。また、遅刻を繰り返す生徒に対しては、家庭との連携を密にし、粘り強く指導する。</li> <li>・生徒会のテーマに沿った企画を委員会や学年、学級、部活動等に立案させる。</li> <li>・各種行事における個や集団の役割を理解させ、主体性や積極性を高める。</li> <li>・生徒・教師とも部活動へのかかわりを深めるために、各部活動が奉仕活動やボランティア活動を計画したり、実施したりする。</li> <li>・生徒会費や特別活動等助成費を有効に活用して環境整備の充実に努める。</li> <li>・上記のことが普段の活動に良い影響となり、生徒の主体的な活動や競技力の向上につながることを期待する。</li> </ul>		

達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内での使用違反 10件 ネットパトロールからの報告 0件 (2学期までの件数)</li> <li>学期ごとの1日平均遅刻者数 1学期 0.38人 2学期 0.83人 3学期 1.17人 年間 0.69人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会行事の自主的かつ積極的参加 1学年 95% 2学年 93% 3学年 95% 全体 95%</li> <li>部活動で奉仕活動やボランティア活動を年2回以上実施 0回 39% 1回 52% 2回以上 9%</li> <li>受賞件数 161件</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律委員が中心となり、スマートフォン使用に関してのルールを徹底させるためのポスターを作成した。生徒会長が全校集会の場で、スマートフォンのルールをしっかりと守るよう呼びかけた。</li> <li>毎朝8:20~8:30まで遅刻指導を行い、朝礼の5分前の8:25には、登校が完了するよう指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の対策として体育大会は種目数を減らし、文化活動発表会では校内の展示発表と高周波文化ホールのステージ発表に変更し、合唱コンクールは中止した。また実施した行事は無観客とした。</li> <li>今年度新たな取り組みだったため、部顧問会議で趣旨を説明して理解と協力をお願いした。内容は各部活動で検討した。</li> <li>文化部の積極的な参加や出展数が増えた。</li> </ul>
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンの校内での使用違反回数は、目標内の数値であったが、無断遅刻においては、2学期から増加し目標を達成できなかった。</li> <li>どの行事も生徒会執行部を中心に各委員会や部活動、係が主体となって活動し、内容も良く生徒全員が楽しめるものとなった。しかし、体育大会では盛り上がり欠ける競技もあった。</li> <li>初めての取り組みで目標を達成できなかったが、来年度もボランティアや奉仕活動を行いたいと考える顧問が7割で、止めたいという意見はなかった。</li> <li>文化部の受賞が増えた。受賞報告会の形式を変えたことで、受賞生徒全員の活躍を披露できる良い機会となった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導、保健厚生ともに、常に呼びかけ様々な方法で取り組んでいくことが必要である。</li> <li>スマホ利用、通学、私生活など、しっかりと指導している。</li> <li>部活で自主的に奉仕・ボランティア活動を進めるのは期待できそうにないので学年ごとに年2回以上計画すればどうか。</li> <li>ボランティアへの取り組みや、文化部の積極的な参加や受賞が増えたことは評価できる。地域との連携、各種研修会や講座への参加が増えたことも良かった。</li> <li>ボランティアの参加率は、現状では達成が難しいと思われる。来年度も不安定な状況が続くと思われるので、達成目標の見直しが必要である。</li> <li>様々な制限がある中で、創意工夫し活動している。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信機器の使用において、全校生徒の前で生徒会長が呼びかけたことによって、使用違反が減ったように感じた。次年度も生徒同士でルールを守りあう体制をつくりたい。</li> <li>朝礼の5分前まで登校完了ではなく、「朝礼の5分前には、教室に入る」という体制にしていきたい。自律委員と協力し、生徒全体で意識を高めていきたい。</li> <li>来年度の3年生は合唱コンクールを経験していないため、3年生の参加についても検討する。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら開催実現に向けて計画する。</li> <li>教員が活動の目的や価値などの意義をしっかりと伝え、生徒が主体性・積極性を発揮できるようにする。</li> <li>3年生の部活動継続率が67%と例年よりも低くなった。部活動で成長を感じられなかった割合が13%であり、問題を解消して退部者を減らすような手立てを講じる。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)